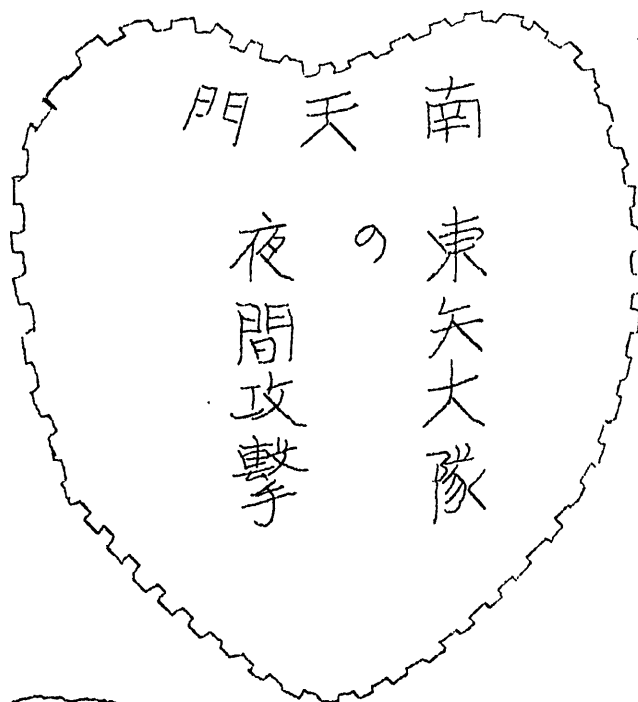
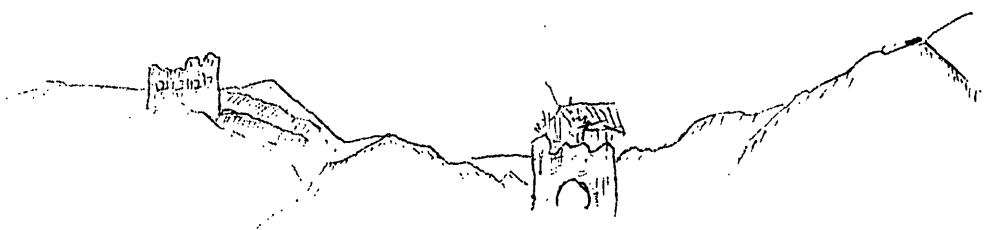




昭和
一〇、六、一五
古業
口

目 示

一、東門附近東矢大隊之夜間攻撃等……………一頁

一、體 隊……………五

三月十日 戦況……………〃

三月十日 隊 状……………〃

長城の戦斗……………六

ハート型城壁の攻撃……………一〇

一、俳 句 裏表紙 文 雀 生

南天明附近、大矢大隊之夜間攻撃

歩兵第十七聯隊第六中隊 安土大尉講話

只今ヨリ南天明附近ニ於ケル大矢大隊ノ夜間攻撃ニ就テ
申上ケマス

大矢大隊ハ先ニ混成第十四旅団ニ屬シ、清河ヲ隔テ、敵
ト対峙シテ居リマシタカ、四月二十一日夜半、同地撤退、南天
門方面ノ戦斗参加ノタメ、急遽、自動車ヲ以テ古止口ニ
招致セラレ、二十六日午台七時五十分、同地ニ到着シマシタ
翌二十七日午前、小隊長以上ハ掩蓋下、聯隊本部ニ集
合シ、聯隊長ヨリ糧食、御教示ヲ蒙リ、友田中佐、高木副
官ヨリ、前面ノ敵情、地形ノ詳細ナル説明アリ、最後ニ聯
隊長ヨリ、全員ニ對シ、南天明攻撃ノタメ、決心ヲ筆記、誓
解セラレマシタ。

同日午右小隊長以上ハ三々伍々敵眼ヲ避ケ廟高地ニ集右
敵情地取ヲ審カシ偵察シ進路其他攻勢ヲシメ種々方々
ヲ致シマシタ

午後九時三十分大隊ハ河東東端ヲ出テ海鼠山ヲ占領
シアリシ第三大隊後方ヲ過ギ東々トシテ高地脚ノ岩壁
ニ沿フテ前進致シマシタ

途中最モ心配致シマシタ小廟附近ヲ占領セル敵ニ又防害
セラル、コトナク無難ニ通過シテ小富士山北側脚ニ於テ
準備位置ニ就キ午前三時十分ヨリ急峻ナル高地ノ焚燬ヲ
始メ小銃、機銃、手榴彈、迫撃砲ノ猛射中ヲ鹿柴
地留ヲ排除シテ前進シ一氣ニ突入シ最初ノ目標タル小富士
山ノ高地ヲ完全ニ奪取シ大隊長ハ喇叭ヲ呼ビ「吾の代ヲ
吹奏セシメラレ

天皇陛下萬歳ヲ三唱セシメラレマシタ

此ノ際一部ニ於テハ格斗力盡リ第五中隊上等兵小杉新一部ノ如
キハ眞先ニ突入シ銃剣ヲ以テ三名ヲ倒シ組ミツキ来ル一名ヲ巧
ミニ投ケ殺ハシテ居リマス 上等兵ハ宍征ニ際シテハ「誠」ノ一字
ヲ中隊長ニ血書提出シ宍征同席ニ之ニ違ハサルコトヲ心掛ケ
テ居タ勇士デアリマス

次テ大隊ハ壕内ノ敵ヲ掃蕩シツ、死骸ヲ踏ミ越ヘテ前進
シ大隊長ハ突撃喇叭ヲ吹奏セシメ各中隊ハ彈雨ヲ物トセズ突
撃ヲ繰返シ白刃ヲ振ヒ猛烈ナル勢ヲ以テ小富ヶ山ノ高地
ト四一〇高地中間岩山高地更ニ最高地四一〇高地ヲ經テ
南大門ニ迫リマシタガ南大門西側高地ノ敵ヨリ盛ニ射ヲ
度ケマシタノデ大隊長ハ第六中隊ニ同高地ノ奪取ヲ命ジマシタ
同中隊ハ鉄系網ヲ強行通過シ猛火ノ中ヲ其ノ西方高地ニ突入
シ之ヲ占領致シマシタガ將校以下残レル者僅カ十名内外ニ過キマ

センデシタ 時ニ午前四時五十分頃デアリマス

占領間々ナク敵兵約三五〇名ノ逆襲ヲ受ケ敵ノ手榴弾ノ
タメ兵員ノ大部分傷ツキ危機ニ陥リマシタガ荒田機銃隊
小隊、第三機銃隊中隊及砲兵ノ協力ニ依リ辛クシテ之ヲ保持
スルユトガ出来マシタ 此際軍曹有藤重次ノ如クハ重傷ヲ推
シ匍匐シテ突撃ニ参加シ自ラ輕機ノ故障ヲ排除射撃シ敵ノ逆
襲ヲ阻止致シマシタカ更ニ手榴弾ヲ受ケ国旗ヲ以テ顔ヲ覆ヒタ
ルママ倒レ一隊兵石田賢義ハ擲弾筒ヲ以テ敵ヲ猛射中一彈
胸部ニ命中シ致命傷ヲ受ケマシタガ「残念デアリマス敵ハ退却
シマシタカ」ヲ繰返シ擲弾筒ヲ堅ク握リ歸メタルマ、荒雨
シテ散乱シテ居マス

又第五中隊ノ一部及第七中隊ハ四〇〇高地ヨリ敵ノ退路ヲ
遮断スル如ク後線ノ南方ヨリ迂回シ機銃隊ハ峻嶒ナル高地ヲ

事ヤ彈藥箱ヲ二箱又背負ヒ歩兵ノ突撃ト共ニ到着致シ
マシタコトハ實ニ驚嘆ニ値スルモノカアリマシタ

四一〇高地ヨリ疾風迅雷ノ勢ヲ以テ後線上ヲ敵陣地ノ側方
ニ迫リマシタ際ハ敵ハ動搖ヲ始メマシタカ一部ハ頑強ニ壕内ニ
止マリテ射撃ヲ加ヘ勇敢ナルモノハ銃剣ヲ振ツテ格闘ヲ求メ
求メ或ハ銃ヲ捨て、組付又更ニ敵ノ前方ニアルモノハ退却シ来
り後方予備隊ニアルモノハ逆襲ヲ繰返サ等奮戦乱闘各
所ニ起リマシタガ物トモセズ喇叭ヲ吹奏シ喊声ヲ上げ萬歳ヲ唱
ヘツ、一氣戰果ノ擴張ニ努メマシタ將校以下何レモ刀双潰レ銃
剣血塗トナリ何レモ數敵ヲ屠リ殺氣横溢意氣軒昂タルモノ
ノカアリマシタ

前田豊彦軍曹奮然突進門内ニ入ラントセシトコニ數十榮ノ
手榴彈ヲ投ケラレニ十數箇所ノ爆傷ヲ受ケマシタガ瀕死ノ重傷
ニ又屈セズ部下ヲ鼓舞激勵シ一歩又戰場ヲ下リマセンデシタ

三)

之ハ軍勢ノミナラス、兵中ニ又復送セラル、ヲ好マス、負傷ヲ秘シ
テ奮斗ヲ續ケタス、ハ斯クアリマセン

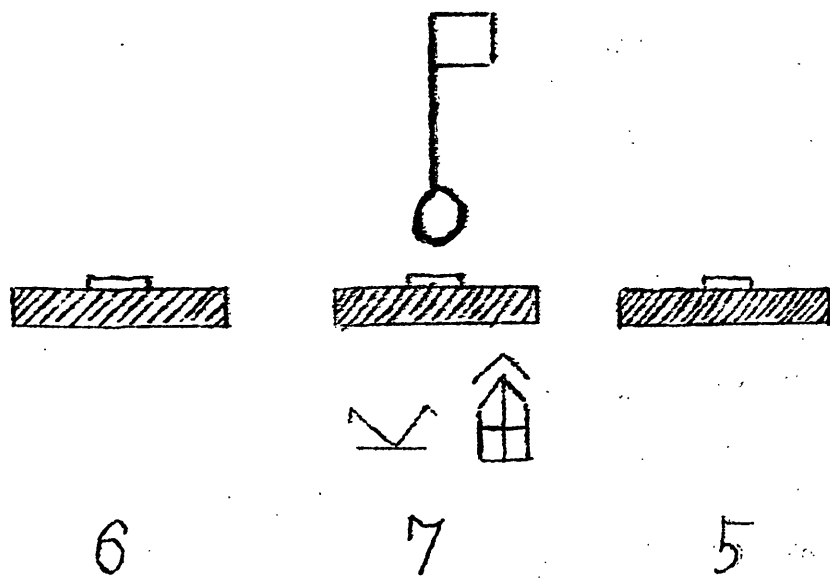
午後四時頃大隊ハ完全ニ南大門東方高地ヲ占領致シマシタガ
敵ハ南大門西方高地及南方一帯ノ高地附近ヨリ猛射シ再三
再四執拗ナル逆襲ヲ繰返シマシタ爲ニ此ノ附近ニ於テ最大損傷
多ク最初ヨリ通算スル時ハ將校以下遂ニ五十名ノ死傷ヲ生
スルニ至リマシタ、

機銃銃隊阿部基松ノ如クハ南大門東方ノ高地ニ於テ右大膽
部隊敵ヲ貫カレ鮮血淋漓タルニ又屈セス、仇ヲ、仇ヲト繰返
シ戦友ノ勸ムル御賜ノ煙草ヲ推シ戴キツ、瞑目シ第七中隊安
藤志五郎ハ優勢ナル敵ノ逆襲部隊至近ノ距離ニ迫ルニ動カ
スルトナリ輕機ヲ執リテ射撃ヲ續ケタルマ、手榴彈命中シ壯烈
ナル戦死ヲシテ居リマス而シテ彼方岩山附近（小富士山、四ノ口高地中）

間ニ於テハ優勢ナル敵ノ逆襲カアリマシタカ機策鋭隊長古谷
 大尉 工兵及右中隊ノ兵ヲ指揮シ夜ヲ占領ヲ確實ニ致シマシタ
 斯ノ如クニシテ大隊ハ良ク大隊敵ヲノ本旨ヲ指揮シ二千數百
 米安以上ニ亘ル縦深陣地ヲ一舉ニ突破シ 天長ノ佐々部前ニ
 南大門ニ翻籠タル旭旗ヲ掲ケ皇軍ノ意氣ヲ示スコトカ出
 来マシタノハ是レニ 皇室ノ御機成ニ依ルコトハ申ス
 マテモナイコトデアリマスガ又將兵一同力各上官ノ意圖ヲ体シ其
 ノ御教訓ニ遵ヒマス南大門ニ於テ 天長ノ部ニ於ケル
 聖壽ノ萬歳ヲ唱ヘサルヘカラサル強固タル意志ニ
 基テ強烈ナル攻撃ヲ精神ノ榮耀ニ外ナラスト考ヘ
 ルノデアリマス

吾々ハ今後益々此ノ夜襲ノ経路ヲ基礎トシ忠誠ヲ勵ミ
 皇恩ノ萬分ノニ 酬ヒ奉ラムコトヲ期スルノデアリマス

PLC



髑 髑 隊

歩兵第三十二聯隊（山形）第三中隊 第一小隊長池上少尉以
下左腕ニ赤地ニ白ノ髑髏模様ヲ描イタモノヲ付ケ小隊旗ト
シテ一面ニハ 北白川宮殿下階下賜ノ宮家御紋章入りノ袂
紗力取り付ケラレ他ノ一面ニハ国旗型中央ニ白ノ髑髏ヲ描キ
邪惡覆滅ヲ主義トシ「必勝力死カレト」大書シ小隊全員
覺悟ノ程ヲ表ハセリ、

三月十日

午後六時 Δ370高地右前ニ「ロ」米長城ノ崩目カラ突令瞬ク
間ニ占領最初 Δ370高地ニ来タカ「十」聯隊カ既ニ占領シタ
ノテ右前ノ望樓ヲ占領スヘク前進セリ日没ト共ニ聯隊ハ概
ネ「エ」Δ370高地ト右前方望樓トノ中間ノ長城ニ沿フ地区ニ
纏レリ、

9182

左
↑

右
↑

三月十日



$I/32i$



$III/32i$

十日
176
日
の
指
揮
下
ニ
入
リ
タ
ル
最
大
翼
ニ
在
リ

伍

長城の戦い

結句のありき

しるしの仮復しき

夢は通らぬ

夢の如く

第三大隊ハ九日夜カラ追撃ノ最先頭ニ立ツタ明クレハ我等ノ記念日三月十日

曰ハ西暦ニ風モナク誠ニ良イ行軍日和ニシテ朝食頃ハ遙カニ萬里ノ長城ヲ望ミ得タコノ記念日 アノ長城ニ国旗ヲ樹テマシテ國體隊ノ三日ニ夜ニ旦ル長城ノ苦戦困憊ノ後トモ思エヌ足元輕ヤカニ長城ヘト急送シタ自動車隊ハ引返シテ

我等ヲ迎ヒニ来タ 斯クシテ ユノ白ノ午迄ハ長城ニ対シテ攻撃
準備ヲ完了シタ

午後四時攻撃前進命令一下

池上髑髏隊第一番ニ後線ヲ抵ヘテ前進シタ スルト同クナリ
旅団ノ主攻撃^点タル △370高地望樓ニ国旗ノ翻ルヲ見テ左翼
隊タル第十七聯隊カ占領シタノカト見テ居ント 更ニ又一本国旗ガ
翻リ 銃イテ兵ノ登ルノカ見エル 中隊攻撃ノ目標カナト左寄
リ過キテハイルガ峰又右ヲ渡ッテ升ルト此ノ位ノ誤差ハ誰ダツテ
出来ルノハ当然カ 池上ガ モウ上ツタノダラウ其レ急ゲト許リ
予備隊ト共ニ前進シタ

8182
右前方カラハ盛ニ彈が来ルガ 左方カラハ来ナイ 山地戦デ一方
カラカケレカ来ナイ時ハ後線ヲ利用シテ安心シテ前進が出来ル
大隊長田中中佐モ直ク後カラ追ッテ来ラレタ 370ニ着イテ見ルト

池上ハ来テ居ナイ十七聯隊ノ右翼中隊カ之レヲ占領シテ更ニ左前
方ニ戦果ヲ擴張中デアツタ

記念日に

白のれん

五七〇

(美那留山)

80

C182

コノ望樓ノ右前方ニハ敵カキル池上小隊及第二中隊方面ヲ確
メル爲メニ長城ニ向ツテ作候ヲ告シタガ敵ツテ来ナイ望樓ノ
窓カラ大隊長ト共ニ敵情ヲ見ラオルト忽チ狙撃サレタ其ノ彈丸
ハ大隊長ノ眼鏡ノ底ヲ貫キ外套ヲ破ツテ腹ノ所ヲ止ツタ大隊長
ハ微傷ヲ受員ハナカツタ誠ニ天祐ト言フヘキデアラウ爾来コノ望
樓ニハ天帝ノ加護カアツタヌウニ思ハレル

十一日夕方敵砲彈ヲ命中シヤニ衆ハ望樓ノ壁ヲ破ツテ中ニ

(1)

1860

飛込ニテ来タ其時丁度旅団長閣下カ幕僚ト共ニ此處ヲ戰ヲ
視察中デアワタト云フ

午右カ所頃右前ニヨロ米長城ノ山崩レ目カラ一人突進 進入スル部隊
カアル 其レテ瞬ク間ニ右前ノ望樓ヲ占領シ旗ヲ掲ケタ 此ノ旗
ソタ密テ明カチハナカツタガ 關防隊旗其ノモノデアワタ

池上小隊最初矢張コノ370高地ニ来タガ 既ニ占領シタヲ見届
ケテモウツ右前ノ望樓ヲ占領スヘク転進シタノデアワタ

曰 援ト共ニ聯隊ハ概ネ此ノ370高地ト共ノ右前方望樓トノ中間
ニ長城ニ沿フ地ニニ懸ツタ

羽立曰 第三大隊ハ長城ノ右カラ第一大隊ハ長城ノ左方ニ攻撃スルストニ
ナツタ(正ハ昨曰カラ 宛長ノ指揮下ニ入リテ旅団最左翼ニ居ル)
天明稍ニ前大隊ハ前進ヲ教スニ多リテ大隊ノ展開及前進掩護ノ爲
昨夜池上小隊カ占領シタ少し前方ノ望樓ニ士官野上等兵以下一分隊

ノ輕機ヲ飛遣シタ此ノ望樓ハ「ハート型」城壁ノ真正面ニ當リ第一
第三大隊ノ継目トシテ戦フニハ重要ナル一地点デアツタ

昨夜池上小隊ノ攻撃テ此ノ望樓ノ敵ハ一旦退却シタカ我ニ大事
ナ地矣ハ敵ニ又重要ト見ヘテ此ノ朝又之ニ发テ来タ其レカ望樓
ノ入ロテ官野分隊ト遭遇戦ヲ始メタカ機先ヲ制シテ官野分隊ハ
忽チ之ヲ撃破シテ所命ノ望樓ヲ占領シタ然シテ敵ハ四、五十米近クノ
距離ニ止リ執拗ニ回復攻撃ヲ企テタ官野ノ分隊ハ此ノ敵ニ対戦中
午前七時射手富山助治鉄帽ノ中央ヲ射貫カレタ第三中隊最初
ノ名譽ヲ戦死ヲ遂ケ代ワテ射手トナツタ成田一第兵又鉄帽ヲ射貫
カレ次テ今野一第兵射手スル也又々鉄帽ヲ射貫カレタ
然レ成田ハ頭部擦過傷今野ハ幸ニ七微傷タモ負ハナカツタ斯ク
シテ成田今野交互ニ射撃中分隊長ハ午前十時頃肩部ニ貫通銃
創ヲ受ケタガ毫モ屈セス仰臥ノママ分隊ヲ督勵奮斗中友軍ノ砲

撃手爆撃手も開始せらるるに至りて敵ト戦フニ近き者係上敵ト誤るルル
ヲ考慮シ戦死セル富山ノ血潮ヲ以テ三南中ニ国旗ヲ掲ギ之ヲ打振リツ、
戦斗ヲ継続シタ

午前十一時頃ニハ頼ハ彈藥ハ盡キ果テタリ尚又銃剣ヲ誰ノ頼トシ
テ此ノ望樓ヲ死守シタ此ノ悲壯ナル戦況ハ午後三時菅野分隊ノ渡辺
ニ分兵ノ本格的報告ニ依リテ知ラセ此ノ望樓ハ終日敵ノ小銃彈 迫撃砲
彈ノ集中 大ニ受ケ 迫撃砲ニトカ出来ズ附近ニ陣地变换ヲシタ
横濱銃隊ハ忽チ一名ノ戦死者ヲ告シ連発ニ行ヤタル中隊ノ佐友
軍曹ハ右額ニ重傷スルト云フ有様ヲ望樓上時々打振ラル、血潮ノ回
轉ニ依リ彈ニ菅野分隊ノ戦斗ヲ知ルミ

重傷者ノ手あハ秋等ノ大戦デアルト茂木者ヲ護兵ハ早速渡辺ヲ
案内ニ望樓ニ上リカケタ中隊長ノ下ニ居タ長岡上等兵ハエ友一等兵ヲ連
シテ重傷者收容室ニ出カケタ敵彈雨中スル所ヲ四人ガ山名薩カラ山名薩ヘト

敵味方ノ屍ヲ越ヘツ、戦友ヲ思フ一心ニ望樓ニ近付クイタマシイ様ハ
中隊長トシテ長ク振返ッテ見ルニ忍ビナカッタ

夕暮漸ク望樓ノ下方ニ穴ヲ穿テテ死傷多ク收容スルニトカ出来タ
右肩カラ繃帯シタセ官野上等兵力儼然タル不動ノ姿勢ヲトツテ戦況
ヲ聯隊長ニ直接報告シタ時ハ聯隊長ノ目ニテ高場参謀ノ目ニテ感激
ノ涙カ光ッタ

詰ヨコノ朝ニ戻ス

300高地カラ四五百米前方接線ニ中隊ハ展布シタ天明頃「ハート型」
城壁斜面ヲ陣地ニ就ク敵兵ヲ発見シタ中隊ハ直ニ之ニ射撃ヲ加ヘタ、
一所ニ居タ松岡大尉ノ機銃銃元猛烈ニ射撃ヲ浴セ忽チ其名ノ敵ハ
其ノママ動カナカッタ此ノ後地ヲ突破シヨウトノ計画ノ下ニ加参上等兵ヲ
長トシテ各地ニ派ッテ候ヲ告シタ上等兵ハ東参入ノ道進出シタカ
往復トスニ一帯ノ射撃ヲ受ケナカッタ報告ニ接シ忽チ各地突破

(ハ)

1865

94

ノ自信ヲ得テ大隊長ニ報告シ
其ニ後線ノ下ヲ廻リテ又一ツ岩
場ハ此ノ時カラ俄然一転シタ
第ニ中隊長岩下大尉 山小隊長
ノ負傷為リ出シ大隊本部
長作重中尉ヲ隊部ニ派遣
ト云フ有様ナル
又トノ境ニ出シタ池上小隊ヲ
察度セストノ報告
敵隊ハ岩地突破力攻ニ務メタ
ニ援ク能ハスレテ夜ニ入リテ 股間ニ盲
貫銃創ヲ受ケタ鈴木二等兵カ人ヲ傷リス 縮退所マデ山ヲ降ツテ歩イ
タ 敵援隊ニ軍匠ニ此報馬シタ
山小隊ノ中ニ吹キ溜メラレタ雪ヲ掃キ分ケ此ノ中ニ入り 岩々ニ御音ク、

隊長ハ右前岩地ニ居タ第ニ中隊長ト
岩タ 今道有利ニ察度シテ居タ戦
此ノ岩地ニ向ツテ集中火ニ注ギ忽チ
其時勢逆長ハ右敵死ニシ始メ数名
死ニ出シタ 森上君又負傷シ小隊
中ニカキテ歎惜ノタメ命惜ヒスル
鈴木二等兵負傷シ 此方面ニ同隊状況

ケタ、マシイ 機密銃 一 輕機 穴ヲ穿キ作ラユノ役ヲ徹シタ、

「ハート型城壁」の突撃

十二日拂曉迄ニ五ハ古北口ニ通スル長城ノ名望樓ヲ占領シテ
仕舞タ茅三中队ハ四方面カラ「ハート」型城壁ヲ奪取ス
ヘント云フ命トナリ午前七時頃度ク「ハート」型城壁ハ長城壁
ト何等異ルストナリ或ヒハ其レ以上カモ知レヌ 果シテ突撃手シ
得ルヤ 崩壊部ハ有ルヤ否ヤ懸念ス増シタカ夫レノ覚悟ハ
瞬時ニ定マツタ死ニ行ク者ニ何カ要ニ皆無義ハ長山峪ノ戦斗ノ折
自動車次ニ残置シタママ防寒ニ外資モ脱ヤステ囊中ニ乾麵包

一食ニシ斯クテ古ノ夕方池上カ尉カ通ツタ長城崩壞部迄成
リ長城外ニ出テ古北口北端ニ通スル長城望樓ニ八国旗カ樹テ
ラレアルガ友軍Ⅳハ一兵ヲ又見ルヲ得ス中隊ハ池上、伊勢西小
隊長ニ引カサシ默カト後方ニ往ツテ居ル昨夜ノ銃声ニ比ヘルト
ヒツソリ用トシテ誠ニ寂涼ノ感ニおタレタ

長山崎テ奇襲ヲ受ケ、アノ悲壯ナル決バヨシタ時ヲモ
中隊長ハ官談ヲ叩イテ居タノニ古ハ一語ヲモ嘶ササ
ソ馬鹿ニ早イ足トリテ独リ先ニ行ク今道ニアレ位
寂シイト思ツタゴトハ無カッタ

ト後程池上カ尉カラ聞カサレテ修養ノ足リナサヲツクム感シタ
事程左様ニ死ヲ決シテ中タラシカッタ自方テハ左程ト思ハナカ
ツタガ「ハート型ノ西北口地ニ出テ長城ノ山崩目カラ敵陣
地ヲ見タ瞬間是ハ必ズ成功スルト確信カ湧イタ、

西小隊長ヲ集メテ最初ニ「ワ」切ツテ告グ言葉ハ此ノ突撃手ハ
必ス成功スルソ、西小隊長モ眼鏡カウ眼ヲ中隊長ニ移シテ
大丈夫テスト答ヘ「陽氣十度ノ氣持ハ生リ吹キ飛ハサレタ
中隊長特有ノ朗ラカノ氣分ニ似リ此ノ為學校時代ニ南原デヤ
ツタ練習ノヤリノ氣持ヲテ命ヲ下シタ

敵ハ工方面ニ「ミ」氣ヲ取ラレ此ノ方面ニ生ク疎ニシテヤル様ニ見エ
タ擧登リ得ント思フ城壁ノ崩レタニ箇所アツタ其ノ突撃
路ノ手前ニ「ロ」米ノ所ニ堅固ノ圍壁ヲ有スル廟カアツタ
先ツ「コ」廟ヲ奪取シテ突撃準備ヲ完了スルマデニシタ

第一突撃隊係長特務曹長ハ短シト射撃ヲ度クルマデトナク之
ニ接近シテ人梯ヲ作ツテ圍壁ヲ乗越ヘ三、四名居タ敵ヲ追払ヒ
難ナク之ヲ占領シ得タ而モ退却スル敵カ十字銃ト目撃トヲ
置イテ行テ突レタ圍壁ノ至ル所ニ銃眼ヲアケ茲ニ敵ハ完全ニ突

撃手掩護射撃手位置ヲ逆算スルヲトカシタ

コノ頃第二中隊カ左方後線ニ現ハレテ突撃ノ氣勢ヲ示シテ并
ル 友軍砲火ハ我突撃手正面ニ集中スルヲ施シ居ル敵ノ頭上

ニ炸烈スル榴霰弾、榴弾ハ化火線爲ヲ連續 突シテサルマウ

テ極メテ正確ナル 其中ニ高掩蓋ニ依リテ我ヲ射撃スル

敵カアル掩護射撃ニ依リテ中隊ノ小銃兵輕微モ命隊長カ上等兵

ノ腕ノ自信ノアル者ノミ一帯トシテ無敵彈ハナイヤ哉山山麓

ニヤツテ中隊聯隊特別射撃手ヲ充新ニヤツテ上手ニヤツト思フタ

中隊ノ小銃令隊全部必上ノ尉ニ指揮セシメ突撃手隊トシテ

此ノ突撃手接点ヲ失テ後線ヲ越シテ 必ニ下ラントスルトヤ友軍

ノ重爆撃機カ来タコノ爆彈カ敵陣ニ命中セハ一度ニ吹飛ン

テ仕舞ウウウガ此方モ同時ニヤラレハレマイカト思フ感カ起

ツタノデアラウ 前進ヲ待テト私ノ口カラ叫ンタ爆彈ハ敵ノ

丁度課イ答ニ茲下シタ我々ノ居ル廟モ山崩レルカト思フ様ナ録音
ト共ニ底カラ黒煙カ舞ヒ上ツタ突撃隊ハコノ爆煙ヲ利用シ
テ敵方斜面ヲ駆ケ下リタ此ノ時カ密外深カツタカラコノ長
山嶺以來不眠不休ノ兵ハ實際疲勞困憊シテ升ル此ノ監視テ
アノ突撃隊ノ崩壊部カ持登レルカ知ラト不志ノ感カチヌト
臆裏ヲ横切ツタガ強イテ忘レル様ニ努メタ

友軍ノ砲彈ハ密集中火ヲ盛ンニマツテ升ル射程延伸ヲヤリ
ソラヲモト思フテ升ルト第二中隊カ出テ来タ後録ハ砲兵ノ
將校カ角型眼鏡ヲ持ツテ一生懸命監視シテ居ルカ見ユル所ノ
砲兵將校ハ歩兵ノ突撃隊と異道々来テ呉レルストナラ大丈夫と思フ
タ先頭カ敵ノ下ニの第位ノ所ニ到達シタ時ニ敵ハ盛ンニ手
榴彈ヲ投シタ幸運ハ此處ニ有ツタ丁度其ノ線ニ高サ一米ニ
近ラナイ断崖ノ線カアツタ後レテ居タ兵ハ急イテ此ノ断崖ニ

寄ッテテ手榴彈ハ盛ンニ投下サレル 白煙ハ一面ニ吹キ上カレ池上
中尉ノ手銃ハ燒盡ニ居ルマデアワタト高カレテ中ル

コノ白煙ヲ通シテ見ルト池上ノ尉ハニヤ分隊ノ兵ト共ニ第二中
隊ト混交シテ左方突撃ヲ開始スル部ノ岩蔭ニ寄ッテ手榴彈ヲ避
ケテ居ル

第一中隊ハ突撃スルコト此ノ突撃ヲ逃ハ讓ルベキデアワタカニ其
ノ時期ヲハナシ 敵手榴彈ノ即落テ隊伍ノ整頓ヲ失来 水管
ノ水モ枯シタ 氣力モ恢復シタ

手榴彈が稍々發煙ニイフタ 其ト許リ池上ノ尉カ最先頭
ニ城壁上ニ跳上ツタ 次テ左邊分隊長也レス跳上ツタ

右方突撃ヲ遂行シテ兵力ノ盡ツ然レ軍勢カ斷然トワカヲ切
ツタ 一尺八寸長銃ノ名刀ヲ振上ケテ真向ニ放カラ打下シタ
頭骨ヲ碎クテ白モト次ニ敵ノ兵ヲ慘ニ殺ルヲ見タ 次ハ

胸ト男ヲ所ヲ突倒シタ 案イタリ切ツタリシタ長城ノ極ハ半
 分ニ折レ刀ハ鏡ノ極ニオタトハ池上ノ尉ノ手記デアル
 此ノ城壁ハ摺鉢ノ縁ノヤウナトコ 此ノ縁ニ寄ツテ矢ハ射撃
 シ或ハ刺突ヲヤツヤル
 コノ縁ニ立ツテ敵果擴散ヲ命シタ頃ハ池上ノ尉ハモウ摺鉢ノ
 内縁ヲ我敵ヲ當シテ右ヘクト突進シテヤタ 〔緩ヲ曲ル迄〕
 敵ニ敵ニ當ルシ此手ノ上段ニ振リ廻ルト忽チ城壁ノ下ニ斬リ下
 シタ 鮮クナ有様ハ扇ヲホイテ 〔兎事 ミゴト〕ト言ヒタイ
 気分ニナル

敵ハ尚掩蔽部ノ中ニ居テ抵抗ヲ將續シテキル此ノ敵ニ対
 シハ銃ヲ射キ込ミ又ハ上方ニ居テ 出テ来ル以テ上カラ刺突ス
 ルノガ定石デアリ又皆左様ニシテ居んか各處上等兵ノミハ下
 カラ掩蔽部入口ノ正面ニ突立ツテ背射ヲ度ケケラ中ノ敵ヲ突キ

携ッテギル 俸力丸銃劍術技能又中隊有數テハナルガ其ノ豪膽
ガハ筆名ニ盡スコトガ出来ナリ、 「安達危イ止メヨ」 由隊長ハ右
ヘ行ッテゾト呼ンダ 「ホカ五人シカヤリマセン」 ト答ヘテ由隊長
ノ後ヲ追ッテ行ッタ、

此ノ時友軍砲彈ハ我等ノ背後ニ五發落トリタ 「砲兵ハ何
ヲ射撃シテイルカ」 ト先程ノ砲兵將校ニ告噓ッタ 「射撃兵
ハ何回ミ申シマシタ」 カト覆面ヲ取ッタ 其ノ人ハ我カ大隊副官
水野中尉カッタ 砲兵將校ハ前ニハ来テ居テカッタノカ

右前方ノ小富士型ノ丘阜ニハ機關銃ハ翻ッテギル飛ンテ
行ッテ池上少尉ト手ヲ握リ合ッタ時ハ煙ニ涙カ雨ノ如ク溢レタ
右側正面ノ岩上ニ寄ル敵ノミハ尙頑強ニ抵抗シテギルノ中
隊ハ左カヲ舉ゲテ背射ヲ送セルト忽チ山崩レ岩ト云ハス道路
トイワス 堤ヲ破ッタ洪水ノ如ク敵ハ真黒ニナリテ潰羞シタ、

1873

102

追撃射撃ノ彈又ナクナリ 遺棄シタ小銃彈ヲ集メテ射ヲ捲
 ツス我一MGハモウ此ノ陣地ニ来テ感心ニ追撃射撃ヲマッテ井ル
 砲撃、爆撃等何レモ壯快 MG隊松岡大尉ト遺棄シテアッタ
 右式MGヲ捲ヒ出シ横桿ヲ引イタリ 彈ヲ込メタリシタガ射
 撃ハ出来ナカッタ、
 其ノ傍ヲ 附小隊長横沢大尉ハ自ラ射撃ヲマッテ井ル敵彈
 ハ當盛ニ来ル 古ノ立身ヨリLGカ猛射ヲ加ヘテ居タ井上
 軍曹カ顔面カラ血ヲ吹イテ伏セタ 驚イテ馳セ寄ッテ「井上
 軍曹」シツカリセヨ」ト肩ヲ叩イタラ「ナニニ大丈夫デス、」
 榮英カ飛ンダノデス」ト鼻ノ先ヲ拭ッテ其ノ後射撃ヲ継
 續シテ居タ 敵彈ヲ集メノ先ヲ擲ラレタノデアリガ今陣地
 ヲ変換スヘキデハナイ 榮英タト云ツタ所ニ古参ヲ隊長ノ德
 苗カアル 佐々木ノ等兵カ肩ヲ貫通サレタカ收容スルトモ泣キ

拒ンカ「エウ戦オハ終リカカラ為療シテ来イ」ト聞カサレテ
初メテ後退シタ其ノ時ニ横沢中尉ノ戦死ヲ聞イタ
眼ヲ血紅ニシテ矢ト矢ニ横沢中尉ヲ抱イテ行ク松岡大尉ヲ見
タ敵ヲ潰滅セシメ最モ壮快ナ追撃射撃ヲ最中ニ昇
天シテ逝ツタ

「ハート」型ノ掃蕩ヲ終リ東部幕ノ部隊ノ海上ニ出テ
錨懸碇ヲ中ニ

天皇陛下萬歲ト喊ス烈歌ケヨト三唱シタ
時ハ誰ノ眼ニ火威激ノ光カアツタ

完

2332

武

支

鑑

は

い

よ

た
は
と
く
は

お
錦
五

1876

1876